

道 教 組

▶ DOKYOSO NEWS vol.495



最賃引き上げ、公務員賃金改善を求めたたたかい

道教組 委員長・書記長会議で学習

「教育全国署名」北海道スタート集会

「教育のつどい2014 in 香川」にのべ5,000人参加

矢臼別平和盆踊り50回目の夏

わたしのとっておき

最賃引き上げ、公務員賃金改善を求めたたたかい

最低賃金の全国一律「時給1,000円以上」に引き上げ、公契約法・条例の制定、公務労働者の賃金改善、人事院がねらう「給与制度の総合的見直し」反対、公務・民間賃金の地域間格差拡大反対、臨時・非常勤職員の賃金や休暇制度の改善を求めて、夏季要求実現のたたかいにとりくんできました。

1 7・23公務労組連絡会人事院交渉

全教も参加している公務労組連絡会は、人事院勧告に向け、地方代表も参加して人事院交渉を行いました。各代表はそれぞれの地域の実情を告発しながら、「給与制度の総合的見直し」で国家公務員賃金が下げられれば、地方公務員やそれに準拠する労働者、さらには民間給与や地域経済にも悪影響を及ぼす。即刻「見直し」を撤回せよと迫りました。



梶木書記長も参加した人事院交渉

2 7・25中央行動

気温35℃を越す炎天下、全国から2,000人が結



中央行動に参加した4名

集し、諸要求の実現に向けて各省庁前行動と銀座デモにとりくみました。道教組からは新保副委員長、梶木

書記長、柳書記、関屋空知教組書記長が参加しました。梶木書記長は人事院前行動で、全教の決意表明として「人事院交渉に参加したが、『民間準拠』の回答を繰り返すだけだ。人事院は、寒冷地の生活実態をしっかりと見るべきだ！」と発言しました。

この日は「えがお署名」（8万2,771筆）と政府・人事院宛「公務員の賃金改善署名」（16万8,774筆）も提出しました。

3 最低賃金審議会から改定答申出される

8月12日、北海道地方最低賃金審議会は、2014年度の北海道最低賃金734円を14円引き上げて748円とする旨の答申を出しました。この10年間を見ると110円の引き上げとなり、これは世論と運動の成果です。

これまで北海道の最賃は、時給換算した生活保護支給額より下回り、「逆転現象」が起きていました。今回ようやく解消される見込みです。

しかし、4月からの消費税増税、今日の物価上昇の影響を考えると、最賃で働く労働者の生活改善にはつながりません。時給748円で1か月フルタイム(173時間)で働いても12万9,404円、年収155万円程度にしかなりません。ワーキングプアのラインとされる年収200万円には及びません。

道教組は道労連のとりにくみに連帯し、審議会前要求行動や新保副委員長は最賃審議会の傍聴にも参加しました。

4 人事院勧告 とりあえずプラス勧告が出されたが…

8月7日、人事院は国家公務員一般職の賃金等について、「1,090円、0.27%」の官民較差にもとづく月例給改定、一時金を0.15月引き上げて年間4.10月とする勧告を国会と内閣に対して行いました。

2007(平成19)年以来7年ぶりのプラス勧告は、賃金改善を求めるねばり強いたたかひの成果ではありますが、この間の賃金削減(国家公務員は2年間の臨時特例法で今年3月まで平均7.8%削減されていたが4月には終了した)と今年4月からの消費税増税、昨年比3%以上の物価上昇に照らすと、公務労働者の生活改善にはほど遠く、極めて不満な勧告といえます。

▶「給与制度の総合的見直し」を強行!

しかし、人事院は「給与制度の総合的見直し」を強行し、平均2%の賃金水準引き下げや地域手当の見直し、50歳代後半層職員の最大4%の賃下げなども勧告に盛り込みました。

これは、安倍政権がめざす国および地方における公務労働者の総人件費削減の要請をうけて打ち出したものにほかならず、地域手当の較差は最大で20%となり、職務給原則は完全に崩れることとなります。

また、寒冷地手当の見直しにも言及しており、道内では級地区分が下がることにより支給額が減少する地域がうまれる見通しです。

▶われわれの賃金改善のたたかひはこれから!

人事院勧告を受けて、北海道人事委員会は私たち道職員給与にかかわる勧告を、10月初旬を目途に知事と道議会に対して行う予定です。これを受けて、道・道教委は来年度の私たちの給与等について提案していきます。それで、11月から1月までの賃金確定交渉へとたたかひは続きます。

北海道では労使間の約束が反故にされ、独自削減が2016年3月まで延長されているほか、多くの民間企業で既に破綻している査定昇給制度(成果主義賃金制度)が強行されています。

公務員の労働基本権制約の代償機関である北海道人事委員会には、人事院勧告に追従することなく、道職員の生活実態、労働実態にふさわしい勧告を出すよう求めています。

北海道人事委員会との交渉は、9月11日、18日、25日と3回行う予定です。2回目の交渉には「14人事委員会勧告に向けた賃金・労働条件の改善を求める署名」を提出します。家族だけでなく、職場や地域にも広げ、9月16日締め切りでとりくみをよろしくお願いします。

道労連定期大会を開催

8月2日、3日、札幌市内で北海道労働組合総連合(道労連)の定期大会を開き、運動方針、新体制を承認しました。尚、道教組からは、西野委員長、齋藤副委員長、相木書記長、柳・木村両書記の5名が代議員として参加しました。

黒沢幸一議長は、「ザ・ウインザーホテル洞爺」などで自分たちの権利を守るために新しい組合が結成され、道労連に加盟してきたことを紹介し、「今こそ、たたかう労働組合が必要とされている」とあいさつしました。

道教組の相木書記長は、「子どもの貧困率が16.3%(厚生労働省調査)になり、過去最悪を更新した。また、教職員の残業時間が91時間(全教調査)にもなっている厳しい状況があり、道教組

内でも労働安全の学習を強め、職場環境の改善を行

いたい。『教え子を再び戦場に送らない』というスローガンが本当に大事になっている」と発言しました。

2日間で29人が発言し、「最賃1000円以上」「教育への政治介入をやめよ」「格差是正」などを訴えました。

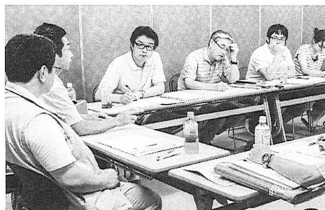
大会最後には、黒沢議長、出口事務局長を含めた新役員体制と方針案が承認されました。



道教組 委員長・書記長会議で学習

7月29日、30日に札幌市内で「委員長・書記長会議」を開催。今年の学習会は①労安学習会と②平和と教育学習会の2本立てとしました。

労安学習会「聴き取り、聴き取られ」



働き過ぎの職場環境をどう改善していくのか、メンタルヘルス不全を起こさないためにはどうしたらよいのか。教育行政は問題を認識しつつ

やっぱり、子どものことが語られました

も、それへの抜本的解決策を示すことができていません。

日常の中で少しでも解決の糸口になりそうなのが、「おしゃべり」ではないでしょうか。隣の同僚に「最近どう?」と声をかけるところから始まります。放課後の職員室での何気ない会話が意外と気持ちいを和らげます。そんな「聴き取り、聴き取られ」をこの会議でもやってみよう企画しました。

冒頭、梶木書記長から「ローアン=労働安全衛生(活動)」について、新保副委員長から「部活動のあり方を考える」と題して話題提供しました。

その後、2グループに分かれてディスカッション。どちらもまず、部活・少年団活動のことが話され、話題の中心は「多忙の実態」に発展しました。

終わりのない教職員の働き方に支えられている学校教育に、さらに鞭を打つ教育行政のあり方、学校現場のあり方が課題です。それに歯止めをかけるのが「ローアン」です。

今後、道教組では学校を「ブラック化」させないために労安学習を推進していきます。

平和と教育学習会「戦前の学校教育」

道退教の渡部会長と加藤副会長をお招きし、戦時中の学校の様子を生々しく語っていただきました。

<加藤さん>

1936(昭和11)年に尋常高等小学校尋常科1年に入学してから、徐々に日本が戦争への道を歩み出し、教育内容が軍事色で染められた。

1年生国語教科書が「サイタ サイタ サクラガサイタ」から、太平洋戦争が始まった6年生では「ススメ ススメ ヘイタイ ススメ」に変わった。

国民学校高等科1年(現在の中学1年)に入学した頃は、陸軍少年兵や海軍飛行予科練の募集があった。1944(昭和19)年工業学校に入学した頃は、柔剣道の選択や軍人勅諭と戦陣訓を暗唱させられた。

終戦の年(昭和20年)には校舎が兵舎として使われ、夜は訓練銃を持って8kmの沿岸警備に出た。

<渡部さん>

太平洋戦争開戦の年(1941/昭和16年)に国民学校初等科1年に入学。「教育勅語」を覚えさせられ、事あるごとに奉読させられた。

祝日には子どもたちは学校(式場)に集められ、天皇陛下と皇后陛下の御真影に最敬礼した。

教科で重視された修身では、歴代天皇の名前、神話、優秀な軍人(爆弾三銃士、木口小平)が教えられた。体育は軍事教練。男子は竹やり、紅白玉で手りゅう弾投げ、女子はなぎなたの練習をした。

学校には軍刀をさげた現役将校が配置され、教師の指導・教育内容、子どもたちに目を光らせていた。

この他、夜には参加者交流会を行い、日頃の健闘をねぎらい、楽しいひとときを過ごしました。



渡部務さんと加藤活勇さん

街頭宣伝・署名行動が始まる

7月27日(日)、ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会は、札幌市内で総会を開催し、全国情勢の学習、現場からの報告、今年のとりのくみを論議し、今年の方針を確認しました。

浅田さん(全教)から、「教育全国署名はこの25年間で4億2761万筆、昨年は803万筆が集まりました。少人数学級は小学校1・2年生で実施したものの、小学校3年生以上は安倍政権により凍結され、全国学テは結果公表が可能になり、教育委員会制度の改悪などが進行しています。教育の無償化めざしてこの署名がますます大事になっています」と報告がありました。

現場からの報告を行った神保さんは、「今年は学級が24人なので子どもたちが良く見える。数が

少ないと集中しやすくなる。やはり少人数学級は大事です」と強調しました。

道退教札幌支部の阿部さんは、「署名活動への参加率が増えています。昨年厚別区の道退教は、街頭署名にとりくみ、26名がなんらかの形で参加しました」と発言しました。

スタート集会終了後、参加者は大通公園において街頭宣伝と署名行動で市民に訴えました。



悪天候の中、全国からのべ5,000人の参加

檜山教組書記長 中山 晴生

「教育のつどい2014 in 香川」が、8月16~19日、雨模様の中香川県高松市で開催されました。3日間でのべ5,000人の教職員、父母、市民などが参加し、7つの教育フォーラム、28の分科会で熱い討論と交流が行われ、道教組からは、レポーター、司会者など計9名が参加しました。

開会集会では、現地の大学生有志によるヒップホップダンス、高松空襲の手記の朗読「カンカン石」によるサヌカイト演奏、参加者全員で「故郷の合唱など、心が和むオープニングとなりました。

その後、いわさきちひろさんのお孫さんにあたる、絵本作家の松本春野さんと、東大教授・九条の会事務局長の小森陽一さんの「いま、憲法を守り、生かす」という対談がありました。松本さんの、しなやかで、みずみずしい感性を小森さんが上手く引き出し、人として、幸せを求める「本能」を共有していくことの大切さを紐解くような対談になり、参加者の共感を呼びました。

開会集会後、7つのフォーラムが開催され、安倍「教育再生」で噴出する問題点や教育の原点を

確かめ合い、様々な課題を考える話し合いになりました。

2・3日目は、28の分科会が開催され、熱心な学び合いが行われました。また、2日目の夜には、道教組・高教組合同の参加者交流会が催され、18名が参加。自己紹介を中心に個性ほとばしるトークもあり、初対面がほとんどの中、少しですがお互いをわかり合える空間となり、大いに盛り上がりました。

今回、香川県知事選挙期間中という事情もあり、街宣カーを中心とした妨害行動は、一切なく、落ち着いた環境の中、教育研究が進められました。また、天候の悪い中、警備、道路や会場の案内など実行委員会の方々の方々の尽力は、相当なものでした。このような支えの中、成功で幕を閉じられた「教育のつどい」は、来年度に引き継がれます。



松本春野さんと小森陽一さん

道教組書記交流会で学習と親睦

新しい書記さんたちも参加

7月18日、労働センターに道教組・各単組の書記が集まり、書記交流会を開催しました。

今回の目的は、道教組書記の押切さんが相田さんへ、空知教組書記の久保さんが片山さんへ交代したこともあり、学習と親睦を図るために開催しました。

参加者は、道教組から梶木・新保・木村・柳・



相田・押切、宗谷から鈴木・中村さん、檜山から長谷川さん、根室から池本さん、釧路から岡本さん、空知から



片山さんの12名です。

書記さん一人ひとりの自己紹介を行い、教育をめぐる情勢、道教組財政・共済会、全国書記連報告などを学習。

夜は全員参加で交流会。本当に楽しく話題が尽きませんでした。書記さん方の日ごろの苦労話も聞けましたし、高くはない賃金で私たち道教組・各単組を支えていただいていることに感謝しております。

今後、書記さん方の苦労に報いるための措置も道教組で検討していきます。

初めての原水爆禁止世界大会参加

門脇 憲司 (宗谷教組)

今回初めて広島の原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。小学6年生と高校1年生の2人の娘と連れ合いで参加しました。学校では社会の時間などで戦争について教える機会はありませんが、自分の子ども達にはほとんど何も話したことがありませんでした。集団的自衛権の問題や中国・韓国との関係が緊迫した中、広島原爆の様子について被爆者の方に直接話を聞き、その当時の詳しい資料を直接見ることで何か感じてほしいと思ったからです。

～6年生の娘の感想～

「広島に来るまで、私は原爆のことも戦争のことも何一つわかりませんでした。だから広島に来てよかったと思います。原爆のことを真実として自由研究にし、クラスの友達に教えたいと思います」

～高校1年生の娘の感想～

「私は初めてこの大会に参加しました。中学校などで被爆者の方から体験談などを聞いて、広島のことには知っていましたが、現在、広島の問題がどうなっているかは知りませんでした。広島平和記

念資料館では、もっと細かなことも知ることができ、勉強になりました」

～連れ合いの感想～

「原水禁大会をきっかけに、念願の広島に来ることができました。参加者の多さにびっくりし、平和や原爆、原発のことについて関心を持っている人、行動している人がいることを考えると、心強く感じました。娘達にもいろいろ考え、感じてほしくて連れてきましたが、これがこれからのきっかけになってほしいです」

大会の分科会では、似島と岩国基地見学に分かれ、戦争時の悲惨な状況や現在の米軍基地の横暴な様子と日米安保の危うさについてそれぞれ知ることができました。今、命の大切さを子ども達に改めて伝えなくてはならないと痛切に感じました。



矢白別平和盆踊り50回目の夏

全国から約1,000名の参加

陸上自衛隊矢白別演習場の中にある川瀬牧場で毎年行われてきた「矢白別平和盆踊り」が、今年で50回目を迎えました。

50年の節目であり、安倍政権による集団的自衛権の行使容認問題もあり、全国から、そして、道教組関係者も例年になく多数参加しました。全国から集まった参加者は、歌や盆踊りなどで交流し、日本の平和について思いを新たにしました。



道教組関係者の中には、全釧路教組・根室教組のテントで夜遅くまで交流し、組合員同士のつながりも深まりました。

別海町で 米海兵隊移転訓練反対全道集会開催

矢白別演習場をかかえる別海町で10日、道安保破棄実行委員会などがよびかけた米海兵隊の移

転訓練に反対する全道集会が開かれ、全道から500人が参加しました。

沖縄の負担軽減を口実に始まった移転訓練は今年で17巡目。戦後69年たっても全国に100以上の米軍基地を抱える異常な日本。「米軍の移転訓練反対、集団的自衛権の行使容認反対、オスプレイの飛行訓練などのない平和な日本をつくろう」という決意がみなぎる集会でした。

集会参加者は、ドラムのリズムに合わせてながら別海町をデモ行進し、「矢白別を返せ」「憲法を守ろう」と訴えました。



編集後記

「集団的自衛権」行使容認の閣議決定がされてから2ヶ月が経ちました。自衛隊員やその家族からも不安の声があがっていると聞きます。

日本には世界に誇る日本国憲法—憲法9条—があります。国内だけでなく、世界に向けて「戦争放棄」を宣言するものです。戦後69年、この宝を国民は守ってきました。

核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを体験した広島・長崎の被爆者は、平和を希求する代表として平和記念式典に臨みました。しかし参列した安倍総理はこともあろうに、あいさつ原稿を昨年とほぼ同じ「コピペ」(コピー&ペーストの略:文章をコ

ピーして貼り付けるの意)にしました。恥ずかしい限りです。両被爆者から集団的自衛権の行使容認閣議決定反対、日本国憲法をふみにじった暴挙だと指摘されたことは、私たちを励ます、まさしく国民の声を代表したといえるでしょう。

イラク北部では、「イスラム国」と称する過激派組織がイラク政府軍や米軍と激しく対立しています。オバマ大統領は空爆を開始しました。大統領は「アルカイダよりも組織力・資金力をもっており脅威になる」と見ています。「我が国にとって脅威になる恐れがある」と日本政府も言いそうです。集団的自衛権の行使容認反対！ (楢木)

わたしのとっておき

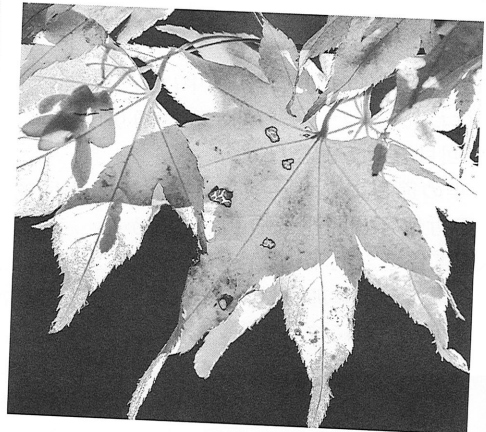
“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「ゆりが原公園での朝露」

時々散歩をして、写真を撮っているゆりが原公園での一コマです。早朝に見つけた植物の「朝露」が太陽の光で輝き、思わずシャッターを切りました。

【新保 裕(道教組)】



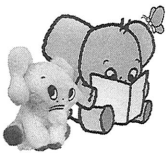
「ちよつと早いけど、紅葉」

暑い夏も過ぎ去り、スキの穂も秋の風情です。実りの秋、食欲の秋はあっという間に通り過ぎ、紅葉の季節になってしまうのでしょうか。

【柳 憲一(道教組)】

全教自動車保険

平成26年1月より大口割引5%導入のお知らせ



小納谷部長
川上企画



全教自動車保険では、「アンケートに答えてドライブレコーダーを当てましょう」のキャンペーンを行っています。加入している方、していない方、どちらにもチャンスです。

提携 東京海上日動火災
保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

自動車保険、マスト、がん保険の問い合わせ先
有限会社 **川上企画** (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウェスト12 1階
フリーダイヤル 0120-222-789 FAX 011-218-2472

道教組

2014年9月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 西野 誠 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター 3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>